

調査結果の概要

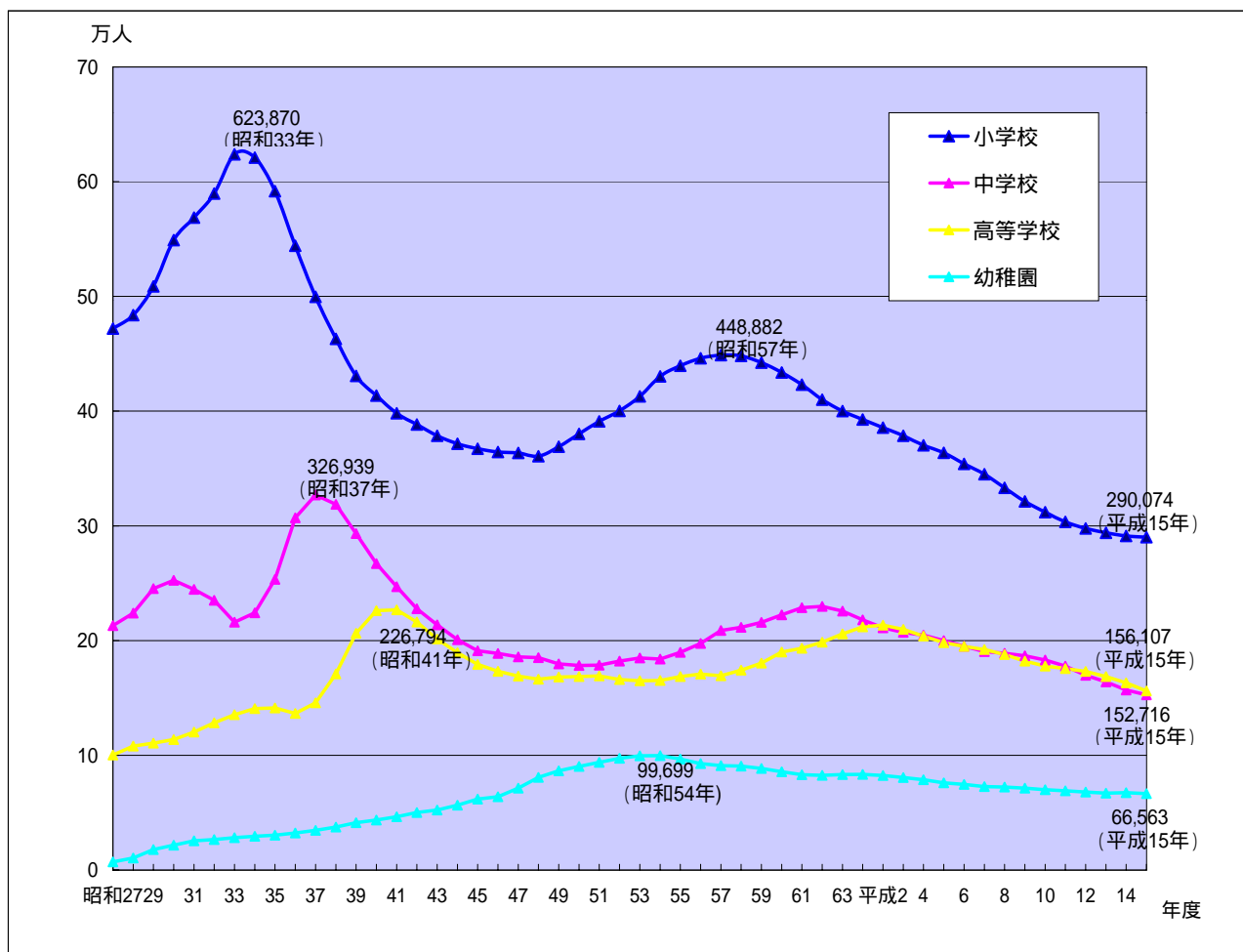
1 学校数・在籍者数

平成15年度の学校数は国公立併せて小学校788校、中学校378校、高等学校189校、盲学校4校、聾学校5校、養護学校31校、幼稚園520園である。前年度と比べて、小学校で1校の減、幼稚園で1園少、高等学校は2校の増加である。

毎年5月1日の幼稚園・小・中・高等学校における幼児・児童・生徒数の推移について表したものが図1-1である。

近年の在籍者数の減少傾向は著しく、小学校在籍児童数で見ると、戦後2度目のピークである昭和57年の448,882人以降は連続的に減少傾向にあり、平成15年度の小学校在籍児童数は290,074人で昭和27年の調査以降過去最低である。

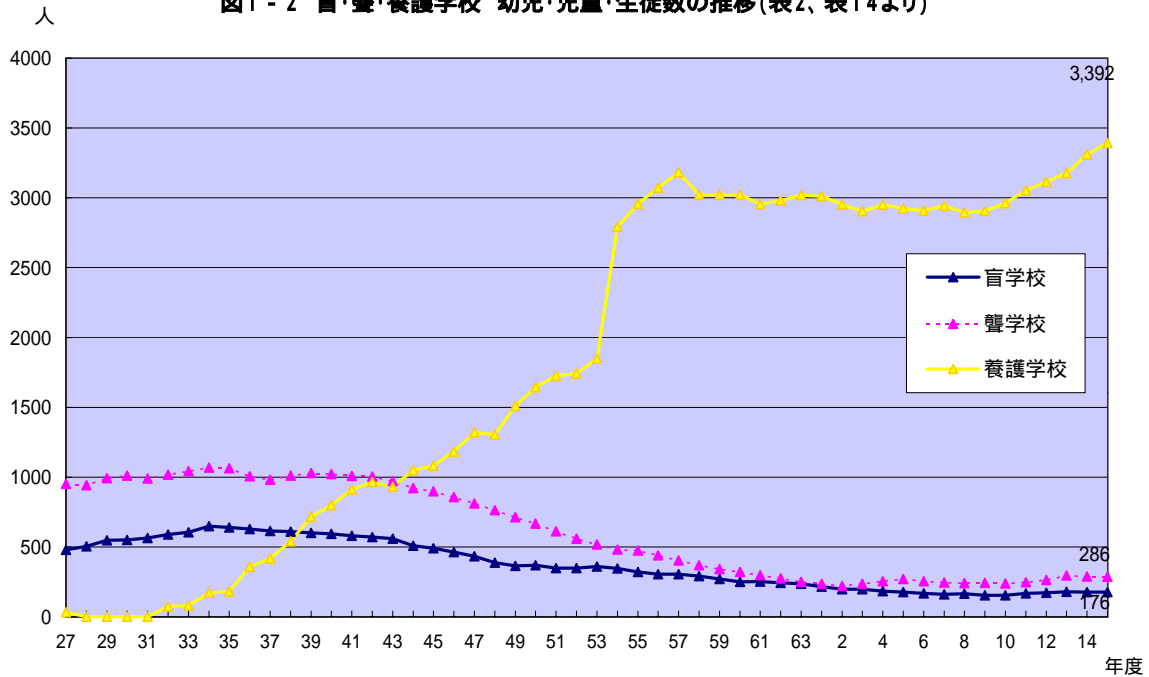
図1-1 幼稚園・小・中・高等学校 幼児・児童・生徒数の推移(表2より)



盲・聾・養護学校における幼児・児童・生徒数の推移について表したものが図1 - 2である。

平成15年度の在籍幼児児童生徒数は盲学校で176人、聾学校で286人、養護学校で3,392人である。養護学校の障害別内訳で見ると、知的障害が2,596人、肢体不自由が669人、病弱が127人である。

図1 - 2 盲・聾・養護学校 幼児・児童・生徒数の推移(表2、表14より)

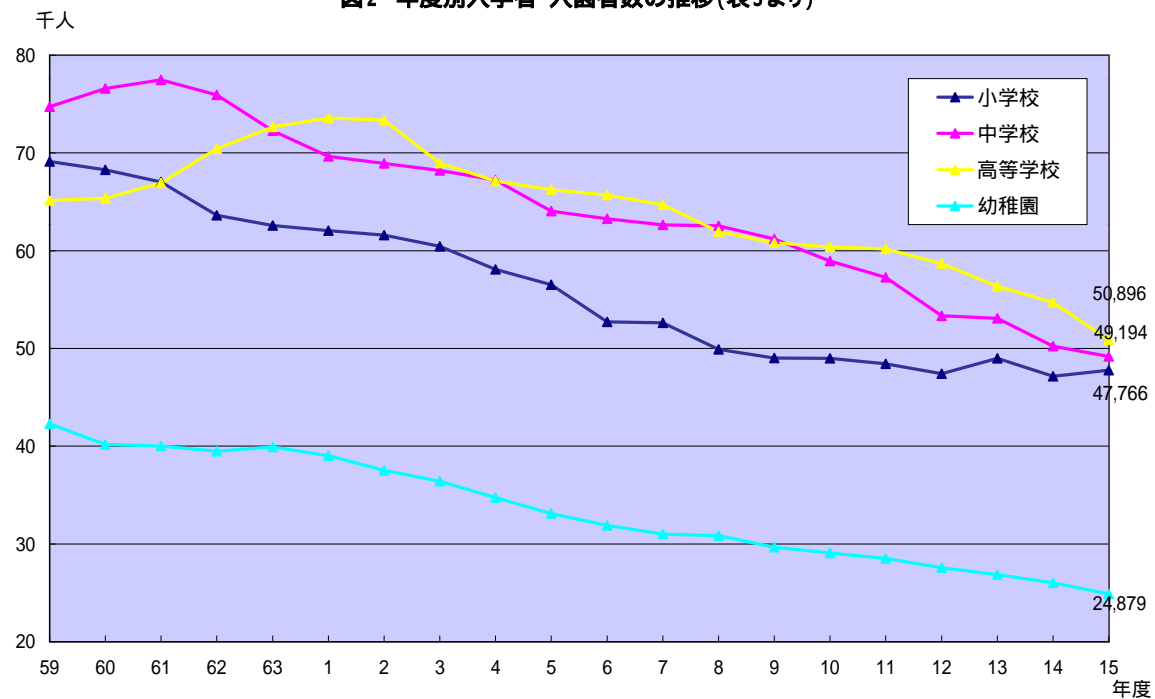


2 入学者・入園者・第1学年児童生徒数

過去20年間の入学者・入園者数の推移を表したものが図2である。

平成15年度の入学状況は幼稚園(3歳・4歳・5歳入園の合計)で24,879人、小学校(第1学年)で47,766人、中学校(第1学年)で49,194人、高等学校(本科)で50,896人であり、全ての学校種別で減少傾向が見られる。

図2 年度別入学者・入園者数の推移(表3より)

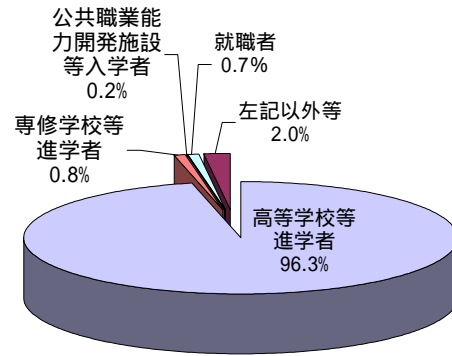


3 中学校卒業後の状況

中学校卒業者の進路状況は、図3のとおりである。卒業生総数53,542人のうち、高等学校等進学者に51,556人、専修学校等入学者は449人、公共職業能力開発施設等入学者80人、就職者361人、左記以外・死亡・不詳1,096人である。

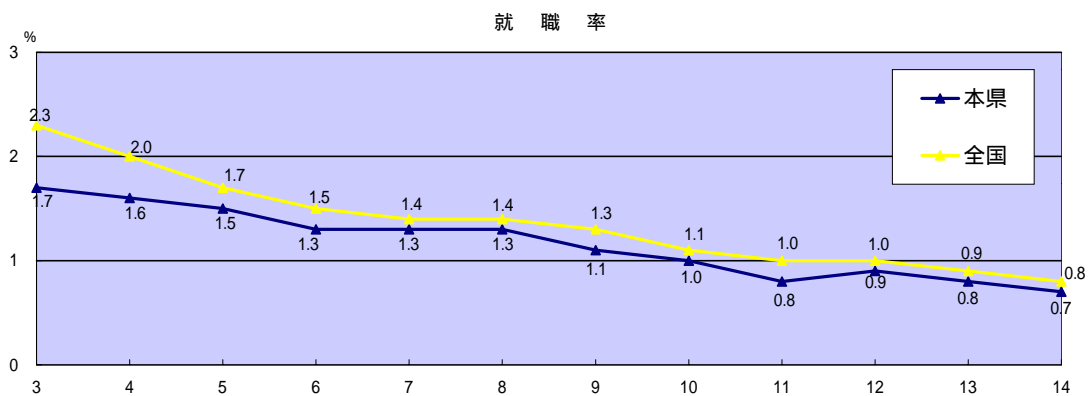
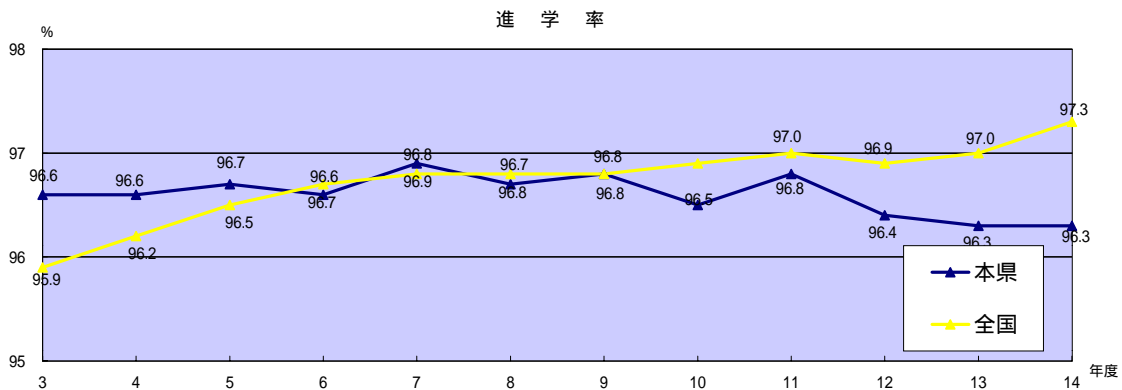
また、就職進学者は高等学校等進学者のうち13人、専修学校等入学者のうち2人である。

図3 中学校卒業者の進路状況(表5より)



中学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図4

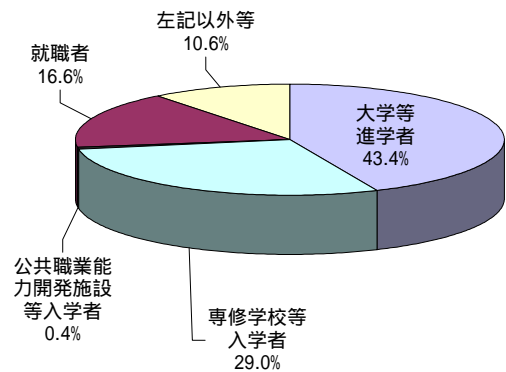
平成14年度(平成15年3月卒)における本県の進学率は96.3%で前年度と同じであり、就職率は0.7%で前年度から0.1%下降している。



4 高等学校卒業後の状況

高等学校卒業者の進路状況は図5のとおりである。
 卒業生総数52,946人のうち、大学等進学者は22,963人、
 専修学校等入学者は15,345人、公共職業能力開発施設
 等入学者は239人、就職者8,796人、無業者・死亡・不詳
 5,603人である。
 また、就職進学者は大学等進学者のうち7人、専修
 学校等入学者のうち72人(0.2%)である。

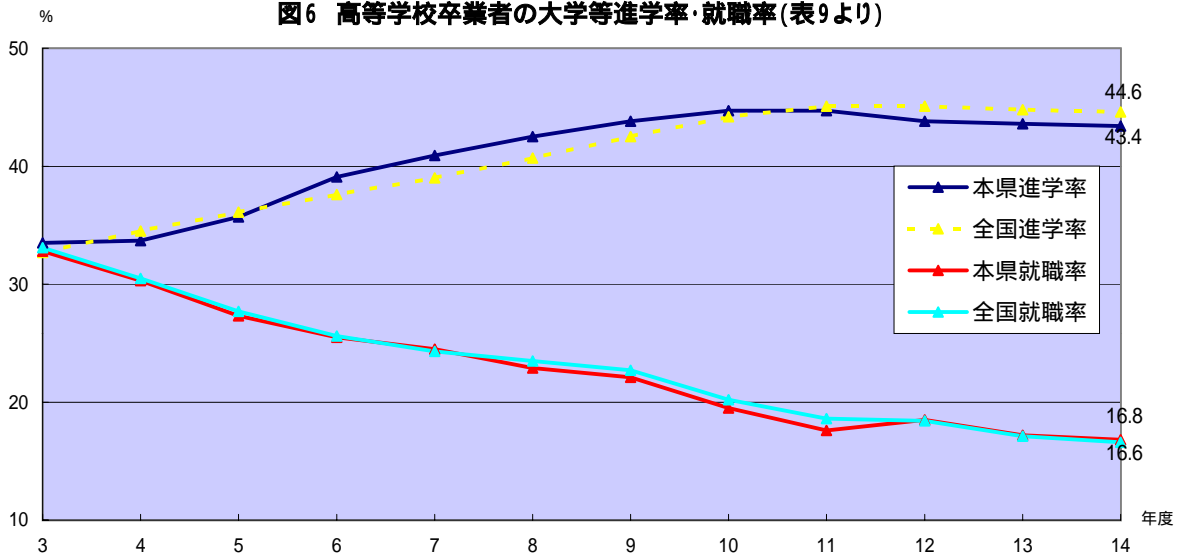
図5 高等学校卒業後の進路状況(表7より)



高等学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図6のとおりである。

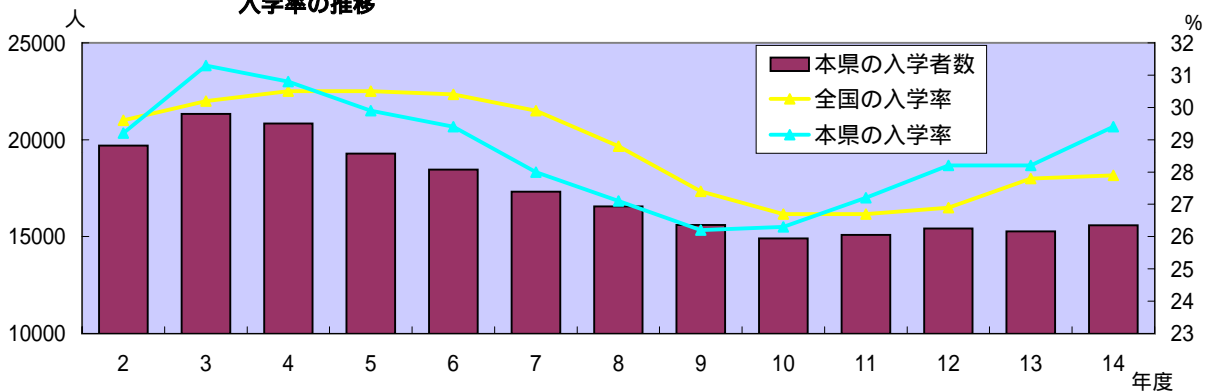
平成14年度(平成15年3月卒)における本県の進学率は43.4%で前年度から0.2%下降し、就職率は16.8%で過去最低となった。

図6 高等学校卒業者の大学等進学率・就職率(表9より)



高等学校卒業者のうち、専修学校等及び公共職業能力開発施設への進路状況は、図7のとおりである。
 平成14年度卒業者のうち入学者数は15,584人(29.4%)であり、昨年度から1.2%の増である。

図7 高等学校卒業者の専修学校・公共職業能力開発施設入学者(合計数)及び入学率の推移



公立高等学校(全日制)から大学・短期大学等に進学した13,722人のうち、大学・短期大学への国・公・私立別進学状況は図8のとおりである。

最も多いのが私立大学への入学者で7,793人
 ついで国立大学2,840人、私立短期大学2,016
 公立大学912人、その他(大学・短期大学の別
 高等学校の専攻科及び盲・聾・養護学校後頭
 専攻科へ進学した者)65人、国立短期大学58
 となっている。

大学と短大の比較では、大学・短期大学等への進学者に占める大学への進学者の割合が昨年の84.8%から84.1%に減少したのに対し、短期大学への進学者は14.7%から15.4%へ増加しており、短大への進学割合が増加している。

国・公・私立別では、国・公立の大学・短期大学の進学者の割合が28.3%から28.0%に減少したのに対し、私立の大学・短期大学への進学者は71.2%から71.5%に上昇し、私立への進学者が増加している傾向にある。

公立高等学校(全日制)卒業者の大学への専攻別進学状況は図9のとおりである。男子の大学進学者は、6,218人、女子の大学進学者は5,327人である。

大学進学者で見ると、全体では社会科学関係が最も多く 35.5%(男子 41.3%、女子 28.8%)となっている。男女別でみると、男子で工学関係(36.1%)が社会科学の次に多く、女子では人文科学(32.1%)が最も多い。(図中のその他には商船、家政、芸術、その他を含む。)

図8 高等学校卒業者の大学・短期大学への国・公・私立別進学状況[公立・全日制] (表10より)

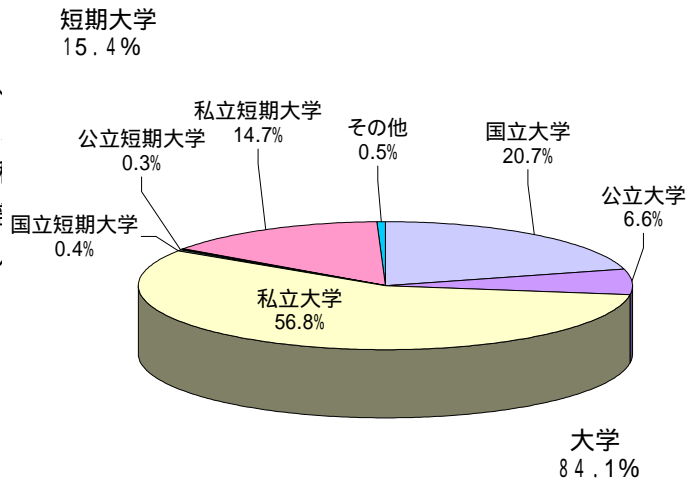
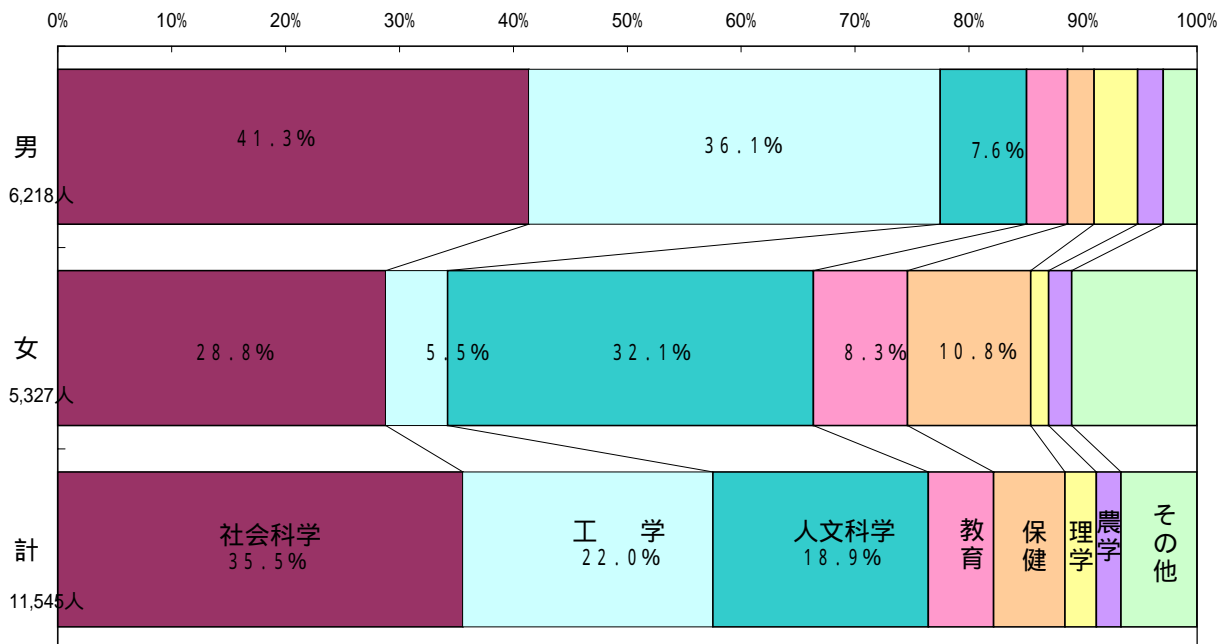


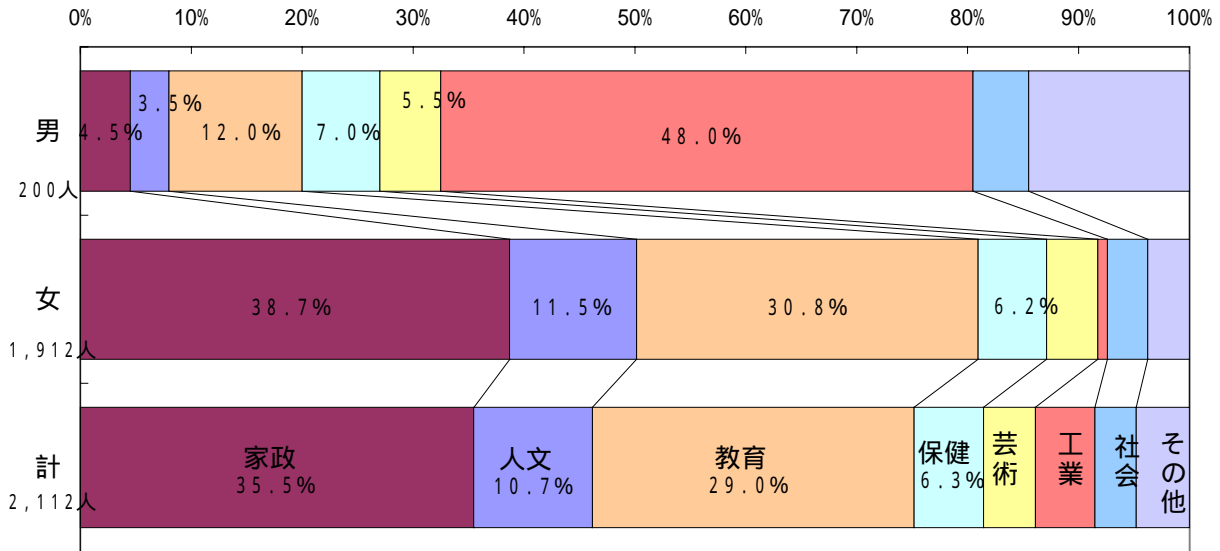
図9 高等学校卒業者の大学への男女別、専攻別進学状況[公立・全日制] (表11より)



公立高等学校(全日制)卒業者の短期大学への専攻別進学状況は図10のとおりである。男子の短期大学進学者は200人、女子の短期大学進学者は1,912人である。

男子で多いのは工業関係で48.0%、次いで教育12.0%、農業7.5%となっている。女子では家政関係が最も多く38.7%を占め、次いで教育30.8%、人文11.5%となっている。
(図中のその他には教養、理数、農業、その他を含む。)

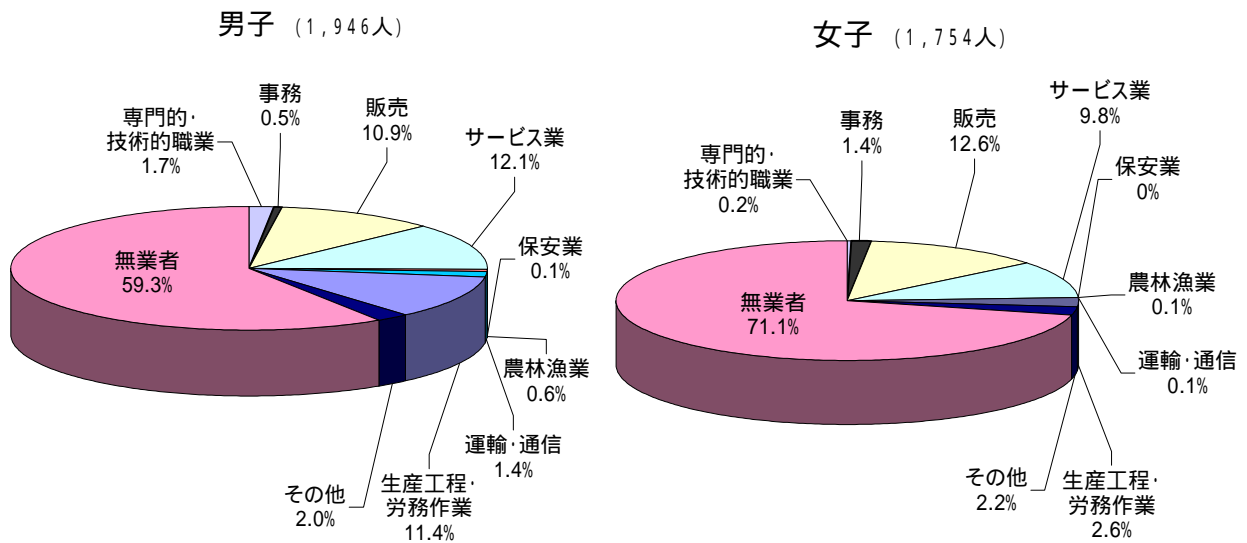
図10 高等学校卒業者の短期大学への男女別、専攻別進学状況[公立・全日制]
(表11より)



5 定時制課程在籍生徒の男女別就業状況

高等学校定時制課程の生徒の就業状況を男女別に表したものが図11である。男女とも無業者の占める割合が最も多く、男子では1,154人(59.3%)、女子では1,247人(71.1%)である。次いで多いのが、男子ではサービス職業者で235人(12.1%)、女子では販売従事者221人(12.6%)である。

図11 高等学校定時制課程在籍生徒の男女別就業状況(公立)(表12より)



6 「学校教育法第75条の学級」(特殊学級)の状況(公立)

「学校教育法第75条の学級」(特殊学級)の児童生徒数は、平成15年度で小学校1,651人、中学校733人である。図12は過去14年間の児童生徒数の推移であり、図13は平成15年度における障害の状況の構成を表したものである。

図12 学校教育法第75条学級(特殊学級)の児童生徒数の推移(表16より)

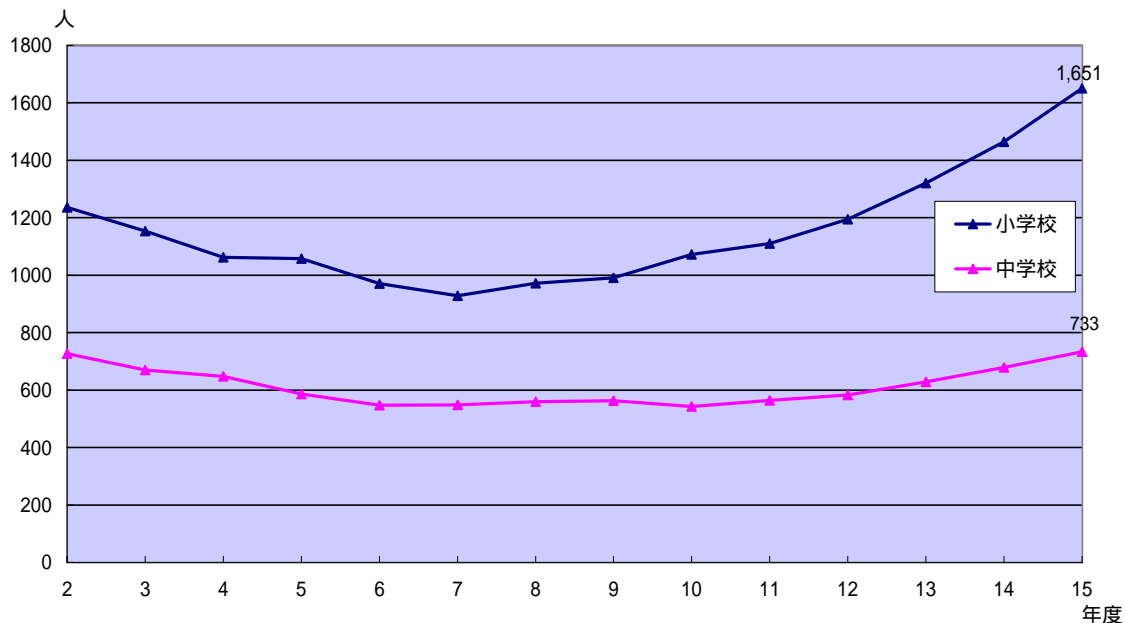


図13 学校教育法第75条学級(特殊学級)の児童生徒数の障害別内訳(表16より)

